



日頃から感染予防対策を心がけましょう

子どもが新型コロナウイルス感染症に感染した場合、症状が出なかったり、発熱、せき、鼻水、下痢、頭痛などの症状が出たとしても、多くの場合は軽症です。オミクロン株は、これまで流行していた変異株に比べて感染力が強いため、感染対策の徹底が難しい子どもを中心に感染が拡大することがあります。

日頃から、健康観察と基本的な感染予防対策を講じることが大切です。

大阪府内のクラスター発生施設において感染拡大の要因と思われるエピソード（一部紹介）
（保健所の聞き取り調査による）

- ・換気は行っていたが、空気の流れを意識していなかった。
- ・職員が、のどの痛みはあるが、他に症状はなかったため、継続して勤務していた。
- ・子どもが使うおもちゃ等は消毒していたが、子どもの手洗いは頻回にできていなかった。

施設でできる日頃の感染予防対策

- ・職員は毎日、自身の健康観察を行い、体調不良時は出勤は控えましょう。
- ・子どもの健康状態を継続的に確認し、症状が見られる場合は登園・登校を控えるよう家庭に要請しましょう。
- ・「三つの密」の回避や「人と人との距離の確保」を含め、以下の基本的な感染予防対策が推奨されます。

手洗い



【手洗いについて】

- ・手洗いは30秒程度かけて、水と石けんで丁寧に洗いましょう。
- ・手を拭くタオルやハンカチ等は、共用しないようにしましょう。
- ・手洗いについてポスターなどで周知し、手洗いのタイミングも習慣化していきましょう。

【消毒について（詳細裏面参照）】

- ・手でよく触る箇所（ドアノブ・手すりなど）は1日1回消毒しましょう。
- ・保育施設等では、おもちゃなど子どもどうしで共有したものは使用後に消毒しましょう。

マスク着用



【マスク着用の考え方】

- ・令和5年3月13日以降、個人の判断が基本となります。
- ・感染が大きく拡大している場合には、一時的に場面に応じた適切なマスクの着用を広く呼びかけるなど、より強い感染対策を求めることがあります。
- ・屋内では、人との距離（2m以上を目安）が確保できて、かつ会話をほとんど行わない場合は、マスクを着用する必要はありません。
- ・屋外では、人との距離（2m以上を目安）が確保できる場合や、会話をほとんど行わない場合、マスクを着用する必要はありません。特に、夏場は熱中症予防の観点から、マスクを外すことを推奨します。

【効果的なマスク着用について】

- ・鼻出しマスク・あごマスクは避け、外側を触らずにひもを持って着脱しましょう。
- ・ウレタン製や布製ではなく、不織布マスクを着用しましょう。

【留意事項】

- ・未就学児のマスク着用を一律には求めません。
- ・感染拡大している場合においても、子どものマスク着用については、健康面などへの影響も懸念されており、引き続き、保護者や周りの大人が個々の子どもの体調に十分注意をお願いします。

こまめな換気



【効果的な換気について（詳細裏面参照）】

- ・窓の開放ができる場合、可能であれば2方向の窓を開けて常時換気しましょう。
- ・窓やドアの開放による換気の際には、子どもの安全を最優先し、転落などが起きないよう環境を十分に検討しましょう。
- ・窓がない場合、換気扇などの換気設備を常時運転しましょう。

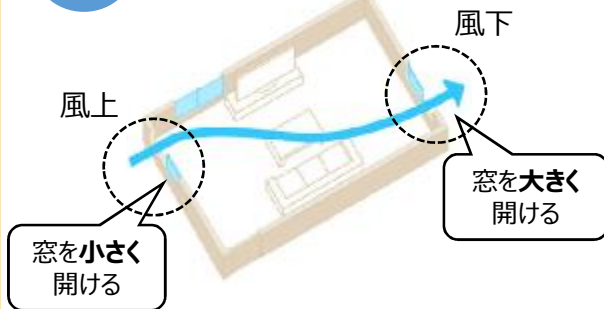
効果的な換気について

開けられる窓が2か所以上の部屋の場合

外の空気を部屋全体に送るために窓を2か所開け、風上から風下に空気の流れを作りましょう。



対角線上に窓を開けると効率的



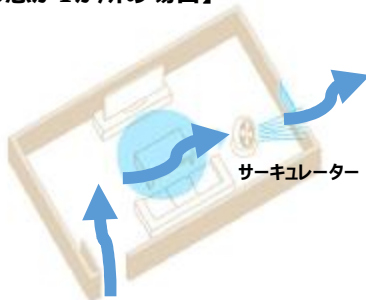
近くの窓を開けると狭い範囲で空気が循環して非効率的



開けられる窓が2か所以上ない部屋の場合

部屋のドアを全開にし、窓もしくは換気扇に向かってサーキュレーターを送るようにしましょう。サーキュレーターをドア側に向けてしまうと、汚れた空気が外に出ていきにくくなります。

【開けられる窓が1か所の場合】



【窓がない場合】



【ビニールカーテンについて】

天井まで覆うビニールカーテンは有効な換気ができにくくなるため、上下に空間を作りましょう。ビニールカーテンの丈を短くするなど、飛沫防止と換気面の両面を意識するようにしましょう。

消毒・除菌方法について

【手や指などのウイルス対策】

1. 手洗い

- ・手や指に付着しているウイルスの数は、流水による15秒の手洗いで1/100に、石けんやハンドソープで10秒もみ洗いし、流水で15秒すすぐと1万分の1に減らせます。手洗いの後、さらに消毒液を使用する必要はありません。
- ・手を拭くタオルやハンカチ等は、共用しないようにしましょう。

2. アルコール（濃度70%～80%のエタノール）

手洗いがすぐにできない状況では、アルコール消毒液も有効です。

【モノに付着したウイルス対策】

消毒作業の際は換気をし、手袋・マスクを着用した上で行いましょう。また、消毒液の噴霧ではなく、消毒液を浸したペーパータオル等で拭き取りましょう。

1. 塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム）による消毒の場合

- ・テーブル、ドアノブなどには、市販の塩素系漂白剤の主成分である「次亜塩素酸ナトリウム」が有効です。
- ・市販の家庭用漂白剤を、次亜塩素酸ナトリウムの濃度が0.05%になるように薄めて拭きます。その後、水拭きしましょう。

消毒剤・除菌剤は使用方法、有効成分、濃度、使用期限などを確認し、目的にあった製品を、正しく選び、正しい方法で使用しましょう。

【参考資料等】

- ・大阪府教育庁；学校園における新型コロナウイルス感染症対策マニュアル（令和5年1月5日改訂第5版）
- ・一般社団法人全国保育園保健師看護師連絡会；保育現場のための新型コロナウイルス感染症対応ガイドブック（第3版）
- ・厚生労働省・経済産業省・消費者庁；新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について
- ・日本小児科学会；子どもと新型コロナウイルスの変異株の感染について（2021年3月23日）
- ・日本小児科学会；子どもおよび子どもにかかわる業務従事者のマスク着用の考え方（2021年4月14日更新）
- ・厚生労働省；マスク着用の考え方の見直し等について（令和5年2月10日）